

非常リモコン

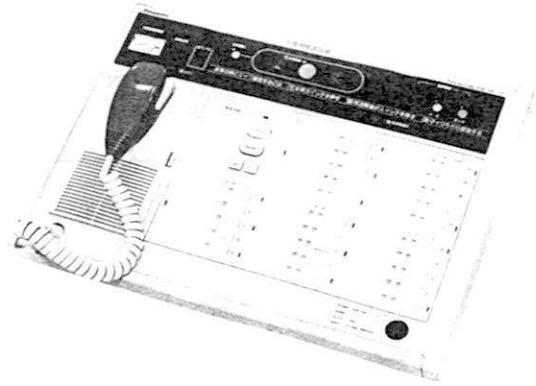
品番 WR-770
WR-775
WR-780

取扱説明書

- この説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと大切に保存し、必要なときお読みください。
- 保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

上手に使って上手に節電



<連動式・10局 WR-770>
<連動式・15局 WR-775>
<連動式・20局 WR-780> 写真はWR-780です。

特長

- 非常操作部、非常・業務放送出力選択部、モニター部で構成された非常・業務兼用の非常リモコンです。
- コンピュータの採用により、コンピュータ自身、蓄電池、非常用マイク、リモコン回線およびスピーカ回線の点検を自動的におこなうセルフチェック機能付です。
- 必要な場所だけに放送できる、ブロック指定放送が可能です。

もくじ

安全上のご注意	I ~ 1	後押し優先方式について	14、15
使用上のお願い	2	日常点検	16~18
非常放送のしくみ	3	■点検について	16
各部の名前と働き	4~7	■電源の点検	17、18
非常放送のしかた(1)~(6)	8~13	こんなときには	19
■発報連動	8	その他の動作	19
■発報連動停止	9	定格・付属品	裏表紙
■発信機・非常電話起動(発報)	10	保証とアフターサービス	裏表紙
■発信機・非常電話起動(火災)	11		
■手動(発報)	12		
■手動(火災)	13		

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

(下記は絵表示の一例です。)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です。



警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。

定期的に点検をする



非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。

- 点検は、販売店や保守契約業者に依頼してください。

分解しない、改造しない



火災や感電の原因となります。

分解禁止

- 修理や点検は販売店にご連絡ください。

異物を入れない



水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

禁止

- ただちに販売店にご連絡ください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災の原因となります。

- ただちに販売店にご連絡ください。

周囲に物を置かない



非常時の操作の妨げになり、火災、災害の拡大の原因となります。

禁止

- 指定範囲は常に整理、整頓してください。

安全上のご注意

必ずお守りください

重量に耐える 取り付けをする



取付の場所や方法が不適切な場合、落下(や転倒)などでの原因となります。

- 販売店に依頼してください。

決められたヒューズを使う



規定以外のヒューズを使うと、火災の原因となります。

⚠ 注意

蓄電池の交換は、販売店か 保守契約店に依頼する



感電の原因となります。

蓄電池をぬらさない



発熱、破損などの原因となります。

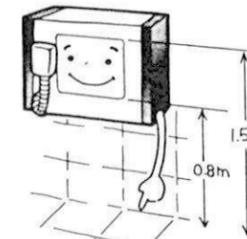
禁止

このたびは、パナソニック 非常リモコンをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

使用上のお願い

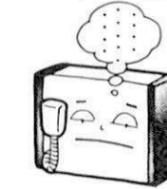
●取り付け高さは変えないでください。

非常リモコンの取り付け高さは床から0.8~1.5mの範囲内と消防法で決まっていますので、ご注意ください。



●本機に異常があるときは

使用中に異常表示灯および短絡表示灯が点灯したり、突然音が出なくなるなど異常が生じた場合はすぐに販売店にご連絡ください。



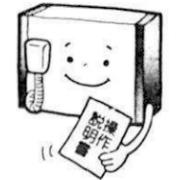
●お手入れは

- ケースの汚れは乾いた布でふいてください。ひどい汚れは、水か台所用洗剤を少し布につけてふき、あとはからぶきしておきます。
- ベンジンやシンナーは絶対に使用しないでください。(カバーが変形したり、変色することがあります。)



●操作説明書は本機の近くに置いてください

非常時に確実に操作できるように、操作説明書は本機の近くに置いてください。本機の上には絶対に置かないでください。

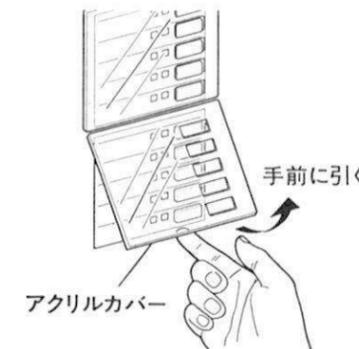


表示カードの使いかた

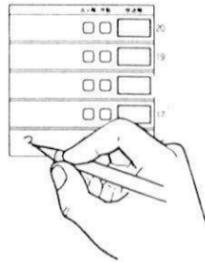
※放送階選択スイッチおよびブロック選択スイッチには、各スピーカの設置場所やブロック指定した場所などを記入する表示カードが付いています。

〈表示カードへの記入方法〉

- アクリルカバーの上下の端面に指をかけ、手前に引いて、アクリルカバーを外します。
- カバーの下の表示カードにスピーカの設置場所やブロック指定した場所などを記入します。



- 表示カードの記入は、鉛筆で行うと、消しゴムで簡単に消えますので、訂正や変更が容易です。

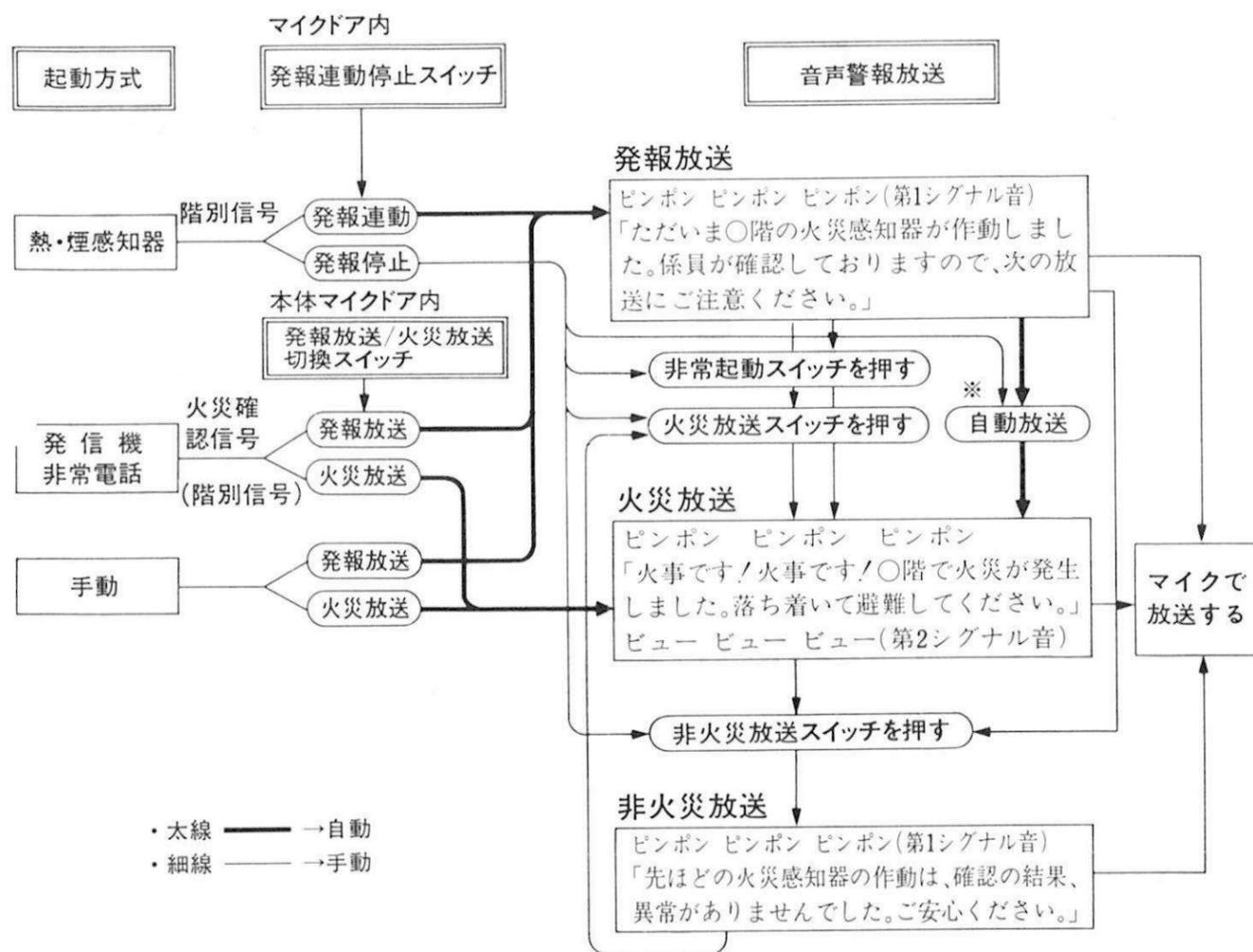


- 記入後は、アクリルカバーをもとの位置に、はめ込みます。

※爪部分は、無理に力を加えると折れますのでご注意ください。

非常放送のしくみ

- 非常用放送設備は、火災発生時に音声合成による音声警報を自動的に放送します。もちろん、通常の呼出放送など、業務放送も行えます。
- 起動方式により操作方法(動作)に少し差があります。あらかじめ販売店(工事店)から起動方式を確認しておいてください。



●※発報放送の後に、自動的に火災放送されるのは、種々の条件があります。(詳細は工事説明書をごらんください。)

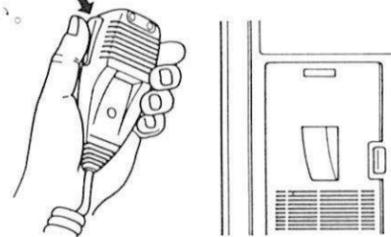
各部の名前と働き

①マイク指示灯(オレンジ色) [▼]

- 非常時、オレンジ色に点滅します。
- マイク放送をしているあいだは、点灯にかわります。

②非常、一般業務放送兼用マイクロホン

- マイクを外し、スイッチを押しながら放送してください。



- マイクスイッチを押したとき、電子音(ピッ)は出ません。

③モニタースピーカー

- マイクのスイッチを押すとモニタースピーカーの音は切れますのでハウリングは起こりません。
- 音量はマイクドア内のモニタ音量スイッチで切り換えます。

④放送可能表示灯(緑色) 放送可能

一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチまたは、放送階選択スイッチを押すと、緑色に点灯し、放送可能となります。放送中に消灯したときは、リモコン放送、一般外部放送、チャイム放送などを放送中です(後押し優先方式の項もご参照ください)。

⑤一斉放送スイッチ

- 一斉放送するときに押します。アッテネータ(音量調整器)が「OFF」の状態でも放送できます。(3線式配線の場合)(この場合、放送階選択指示灯が点灯します。)
- アッテネータ「OFF」のとき、放送できなくすることも可能です。

⑥放送復旧スイッチ

放送が終了したら、放送復旧スイッチを押します。(放送可能表示灯が消えます。)

⑦コールサインスイッチ

放送可能表示灯が点灯している時に、コールサインスイッチを押すと、コールサインを放送できます。

- ♪ 上り4音を放送できます。
- ♪ 下り4音を放送できます。

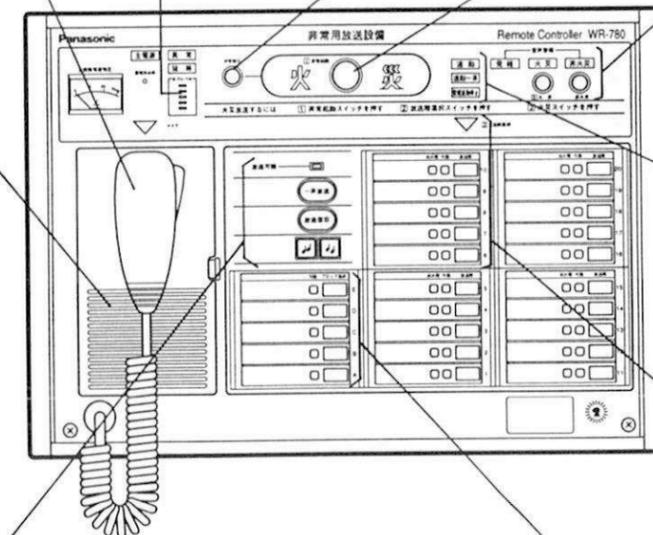
- 各々のスイッチ(非常起動スイッチを除く)は、ソフトタッチの電子スイッチを採用していますので、押すと「ピッ」という電子音が出ます。
- スイッチは、正確に押してください。

⑧出力レベル表示灯

- [出力レベル]
- スピーカーより流れる音の出力レベルを表示します。
 - 接続された機器の音量調節は、赤色の表示灯が点灯しないよう調節します。

⑨非常復旧スイッチ

- [非常復旧]
- 非常放送を復旧するときスイッチを押します。(一般放送復旧も可)



⑩ 非常起動スイッチ [非常起動]

- 手動で非常放送をする時に押します。
(発報放送時または発報連動停止状態で階別信号入力時に、このスイッチを押して火災放送することができます。)

⑪ 火災灯 (赤色)

- 階別信号からの非常起動により点滅します。
- 階別信号 + 火災確認信号からの非常起動により点灯します。
- 手動起動スイッチを押すと点灯します。
- 自動放送タイマー作動中は点滅します。

⑫ 連動表示灯 (赤色) 連 動

発報連動として使用するとき、マイクドア内の連動スイッチを押すと、点灯します。
(連動一斉表示灯は消灯)

⑬ 連動一斉表示灯 (赤色) 連 動 一 斉

連動一斉として使用するとき、マイクドア内の連動一斉スイッチを押すと、点灯します。(連動表示灯は消灯)

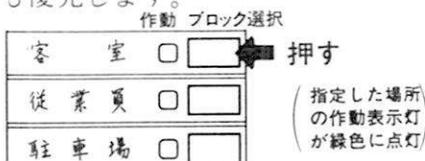
⑭ 発報連動停止表示灯 (赤色) 発報連動停止

発報連動停止として使用するとき、マイクドア内の発報連動停止スイッチを押すと点灯します。

⑮ ブロック選択スイッチ [ブロック選択]

⑯ ブロック作動灯 (緑色) [作動]

- ブロック指定した場所に放送するとき押します。
- ブロック選択スイッチを押すと、ブロック指定した作動表示灯が緑色に点灯します。
- ブロック選択スイッチの復旧は、放送復旧スイッチを押します。
- ブロック選択スイッチは、放送階選択スイッチよりも優先します。



⑰ 発報放送表示灯 (オレンジ色) 発報

発報放送時に点灯します。

⑱ 火災放送表示灯 (赤色) 火災



⑲ 火災放送スイッチ 火災

非常時、スイッチを押すと火災放送表示灯 (赤色) が点灯し火災放送が放送されます。

⑳ 非火災放送表示灯 (緑色) 非火災



㉑ 非火災放送スイッチ 非火災

非常時、スイッチを押すと非火災放送表示灯 (緑色) が点灯し非火災放送が放送されます。

㉒ 放送階選択指示灯 (オレンジ色) 放送階選択

- 非常時 (階別信号など、外部起動で非常動作になった場合) オレンジ色に点灯します。
- 手動非常動作時 (非常起動スイッチ ON) 点滅します。この後階別信号入力や手動入力 (放送階選択スイッチ、ブロック選択スイッチ ON) で点灯に変わります。
- 一般放送時、一斉放送スイッチ、ブロック選択スイッチを押したとき点灯します。(一斉放送スイッチは、書き込みによる緊急一斉指定した状態で点灯)

㉓ 放送階選択スイッチ [放送階選択]



- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。(作動表示灯が点灯) (緑色)
- 放送階選択スイッチを個別に復旧するときは、再度押します。(作動表示灯が消える)
- すべてを復旧するときは放送復旧スイッチを押します。(すべての作動表示灯が消えます。)

㉔ 出火階表示灯 (赤色) [出火階]

- 非常時、階別信号により起動を受けた階の出火階表示灯が赤色に点灯し、出火階を表示します。
- 一つの階に、複数の室があるとき、その階のすべてが点灯します。

㉕ 作動表示灯 (緑色) [作動]

- 放送階選択スイッチまたは、ブロック選択スイッチを押すと緑色に点灯します。
- 一斉放送スイッチを押すとすべてが点灯します。
- 非常時、出火階または連動階の作動表示灯が点灯します。
- スピーカ回線が短絡すると、短絡した階の作動表示灯が点滅します。このとき、短絡表示灯 (赤) も点灯します。販売店または保守契約店にご連絡ください。

各部の名前と働き

②⑥ 主電源表示灯(緑色) [主電源]

- 常用電源(AC100V)が使用されているとき、緑色に点灯します。
- 非常電源(DC24V)に切り換わると点灯します。(停電時の非常動作時)

②⑦ 異常表示灯(赤色) [異常]

次の回路に異常が生じると、赤色に点灯します。

1. コンピュータ → コンピュータ異常表示灯も点灯
2. リモコン回線 → リモコン回線異常表示灯も点灯
3. 蓄電池 → 蓄電池異常表示灯も点灯
4. 非常用マイク(本体、リモコン) → マイク異常表示灯も点灯
(異常の機械のみ点灯)

ご注意

異常表示灯が赤色に点灯、または主電源表示灯が消えているときは、販売店、保守契約店にご連絡ください。

②⑧ 短絡表示灯(赤色) [短絡]

スピーカ回線が短絡すると、赤色に点灯し、短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

ご注意

短絡表示灯が赤色に点灯したときは、販売店、保守契約店にご連絡ください。

②⑨ 蓄電池点検スイッチ [蓄電池点検]

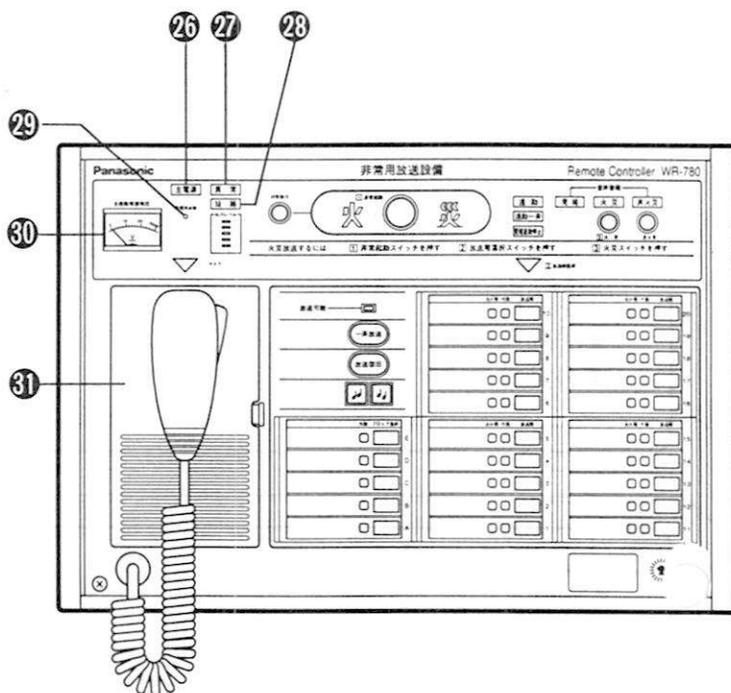
スイッチを押すと主回路電源電圧計に約10秒蓄電池電圧が表示されます。(指針が緑色の範囲内であれば正常です。)

②⑩ 主回路電源電圧計 [主回路電源電圧]

通常は非常電源電圧を表示します。蓄電池点検スイッチを押すと蓄電池電圧がしめされます。

②⑪ マイクドア

開けると内部に各種異常表示灯と設定用スイッチ類があります。



マイクドア内

②⑫ ~ ②⑮ 各種異常表示灯

- 操作パネル左上の異常表示灯が赤色に点灯したとき、下の表示灯のいずれかが赤色に点灯します。
- どこが異常なのか確認してから販売店、保守契約店にご連絡ください。
- 異常表示灯点灯時は警告音が「ピーピー」鳴り異常を知らせます。
警告音を止めるにはいずれかのスイッチを押してください。一時的に止めることができます。

②⑯ コンピュータ異常表示灯(赤色)

コンピュータ異常時、点灯します。

②⑰ リモコン回線異常表示灯(赤色)

リモコン回線異常時、点灯します。

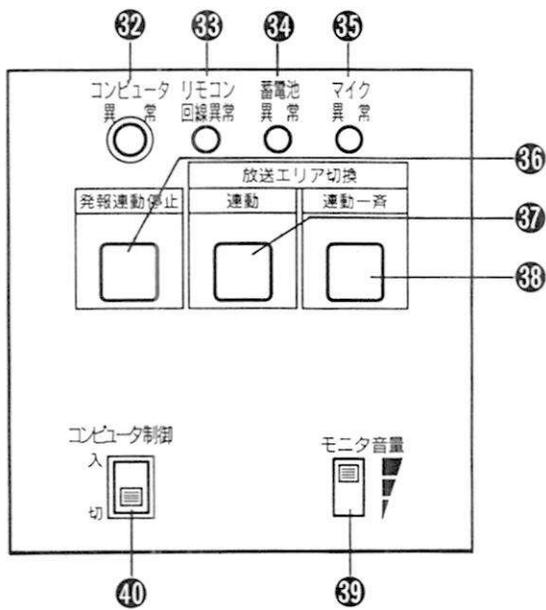
②⑱ 蓄電池異常表示灯(赤色)

蓄電池電圧が異常の場合、点灯します。

②㉑ マイク異常表示灯(赤色)

マイクがなんらかの原因で断線状態になると点灯します。

リモコンのマイク異常であれば異常のあるリモコンのマイク異常表示灯が点灯します。



③⑥ 発報連動停止スイッチ

- 発報連動停止でご使用になるとき、このスイッチを押します。
発報連動停止表示灯が点灯します。

③⑦ 連動スイッチ

- 連動でご使用になるとき、このスイッチを押します。
- 連動表示灯が赤色に点灯します。
(このときは、連動一斉表示灯は消灯)

③⑧ 連動一斉スイッチ

- 連動一斉でご使用になるとき、このスイッチを押します。
- 連動一斉表示灯が赤色に点灯します。(このときは連動表示灯は消灯)

③⑨ モニタ音量スイッチ

モニタ音量を3段階に切り換えできます。
(非常時は無効です。)

④⑩ コンピュータ制御スイッチ [コンピュータ制御 入/切]

- 通常は必ず「入」位置にしてください。
- 異常が発見され、修理した後、このスイッチを「切」にしてから「入」にすると、正常の動作に戻ります。

● コンピュータ異常時に放送するとき、「切」にすると一斉マイク放送ができます。

非常放送のしかた(1)

■ 発報連動(熱・煙感知起動⇒発報連動停止表示灯消灯時)

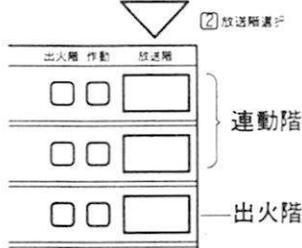
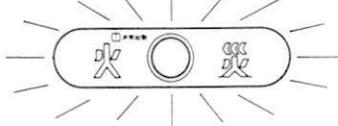


感知器から
信号がくる。
(発報状態)

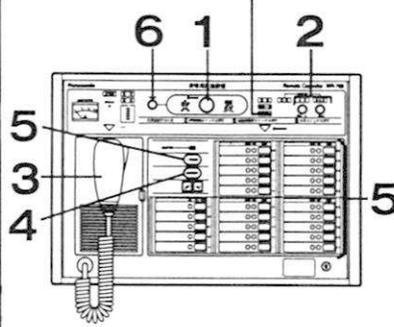
1 出火階、連動階に発報放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)
「ただいま〇階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

- 火災灯点滅(赤色)
- 出火階の作動表示灯点灯(緑色)



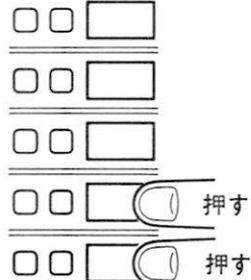
発報連動停止 消灯



6 非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。
(感知器が動作している間は、
非常放送は復旧しません。)



5 必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



- 一斉放送の場合は、一斉放送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

4 放送復旧スイッチを押す。



2 火災を確認する

- 火災⇒火災放送スイッチを押す。
火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン
「火事です!火事です!〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー(第2シグナル音)

- 非常起動スイッチを押しても、火災放送されます。
- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して火災放送を止めることができます。

以下は自動的に移行します。

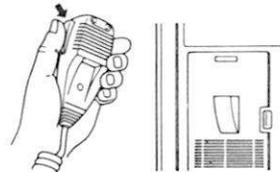
- 発信機起動(火災確認信号+階別信号)
- 非常電話作動(火災確認信号+階別信号)
- 第二感知器作動(階別信号)
- 同上(火災確認信号)
- タイムアップ(2~5分)

- 非火災⇒非火災放送スイッチを押す。
非火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

3 状況に応じて、
適宜マイクで放送する。
(マイク放送優先)

スイッチを押す



- 出火階と連動階にマイク放送が流れる。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となり、5の操作は不要です。
- 火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

非常放送を終了する場合は6へ。

非常放送のしかた(2)

■ 発報連動停止 (熱・煙感知起動 → 発報連動停止表示灯点灯時)



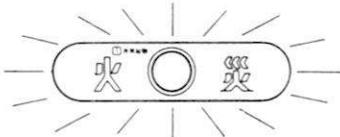
感知器から
信号がくる。
(発報状態)

1 モニタスピーカから火災音信号が放送される。

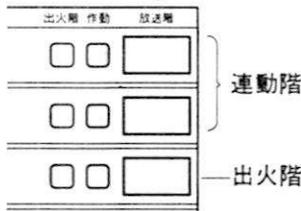
ビー、ビー、ビー

発報放送はされません。

- 火災灯点滅(赤色)
- 出火階の作動表示灯点灯(緑色)



放送階選択



2 火災を確認する

- 火災 → 火災放送スイッチを押す。
火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン
「火事です!火事です!〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー(第2シグナル音)

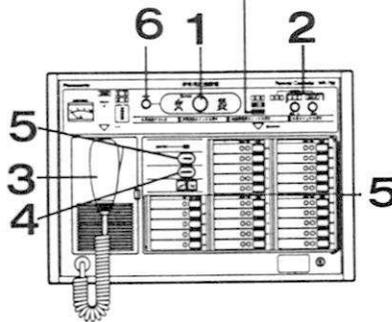
- 非常起動スイッチを押しても、火災放送されません。
- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して火災放送を止めることができます。

以下は自動的に移行します。

- 発信機起動(火災確認信号+階別信号)
- 非常電話作動(火災確認信号+階別信号)
- 第二感知器作動(階別信号)
- 同上(火災確認信号)
- タイムアップ(2~5分)
- 非火災 → 非火災放送スイッチを押す。
非火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

発報連動停止 点灯

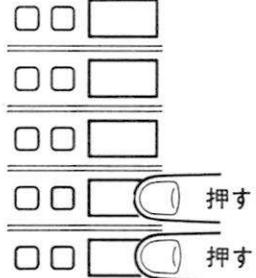


6 非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。
(感知器が動作している間は、非常放送は復旧しません。)

非常復旧



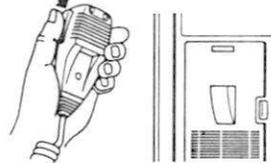
5 必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



- 一斉放送の場合は、一斉放送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

3 状況に応じて、適宜マイクで放送する。(マイク放送優先)

スイッチを押す



- 出火階と連動階にマイク放送が流れる。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となり、5の操作は不要です。
- 火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

4 放送復旧スイッチを押す。



放送階選択指示灯が点滅。

非常放送を終了する場合は6へ。

非常放送のしかた(3)

■発信機・非常電話起動(発報)

(発信機・非常電話と連動⇒発報放送/火災放送切換スイッチが「発報放送」)

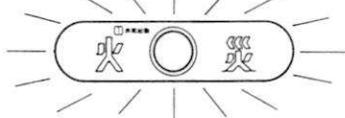


感知器から
信号がくる。
(発報状態)

1 出火階、連動階に発報放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)
「ただいま〇階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

- 火災灯点灯(赤色)
- 出火階の作動表示灯点灯(緑色)



② 放送階選択

出火階	作動	放送階
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

連動階

出火階

2 火災を確認する

- 火災⇒火災放送スイッチを押す。
火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン
「火事です!火事です!〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー(第2シグナル音)

発報放送が終了すると、火災放送されます。

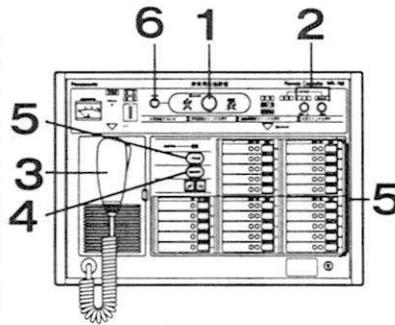
- 非常起動スイッチを押しても、火災放送されます。
- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して火災放送をとめることができます。

以下は自動的に移行します。

- 第2感知器作動(階別信号)
- 感知器発報放送終了後

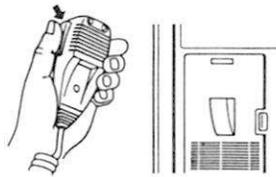
- 非火災⇒非火災放送スイッチを押す。
非火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」



3 状況に応じて、
適宜マイクで放送する。
(マイク放送優先)

スイッチを押す



- 出火階と連動階にマイク放送が流れる。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となり、5の操作は不要です。
- 火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

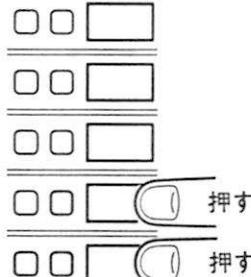
6 非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。
(感知器が動作している間は、
非常放送は復旧しません。)

非常復旧



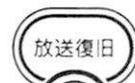
押す

5 必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



- 一斉放送の場合は、一斉放送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

4 放送復旧スイッチを押す。



放送復旧



押す

放送階選択指示灯が点滅。

非常放送を終了する場合は6へ。

非常放送のしかた(4)

■発信機・非常電話起動(火災)

(発信機・非常電話と連動⇒発報放送/火災放送切換スイッチが「火災放送」)

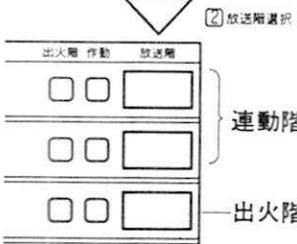


感知器から
信号がくる。
(発報状態)

1 出火階、連動階に火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン
「火事です!火事です!〇階で火災が発生
しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー(第2シグナル音)

- 火災灯点灯(赤色)
- 出火階の作動表示灯点灯(緑色)



2 火災を確認する

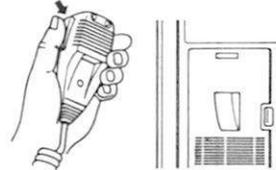
- 非火災⇒非火災放送スイッチを押す。
非火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、
異常がありませんでした。ご安心ください。」

- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、
放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチ
を押して火災放送をとめることができ
ます。

3 状況に応じて、
適宜マイクで放送する。
(マイク放送優先)

スイッチを押す

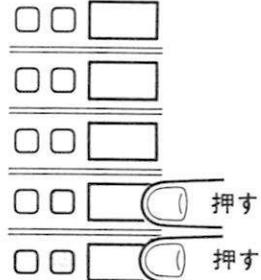


- 出火階と連動階にマイク放
送が流れる。
- 連動一斉表示灯点灯時は、
マイクは全館一斉放送とな
り、5の操作は不要です。
- 火災放送時マイクで放送し
た後、マイクスイッチを切
ると第2シグナル音が鳴ります。

6 非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。
(感知器が動作している間は、
非常放送は復旧しません。)



5 必要な階を選択し、再びマ
イクで放送する。



- 一斉放送の場合は、一斉放
送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイ
ッチを押した後、放送階選
択スイッチを押すと、第2
シグナル音が鳴ります。

4 放送復旧スイッチを押す。



- 放送階選択指示灯が点滅。
- 「ビュー ビュー ビュー」は
止まる。

非常放送を終了する場合は6へ。

非常放送のしかた(5)

■手動(発報)(発報放送/火災放送切換スイッチが「発報放送」)



●手動起動には手動連動・個別手動の2種類があります。(出荷時は手動連動)
詳しくは工事説明書をご覧ください。

1 非常起動スイッチを押す。
放送階選択指示灯が点滅。

押す

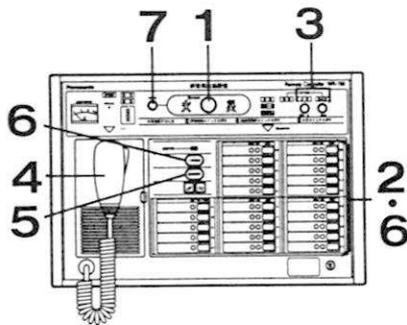
2 放送したい階の放送階選択スイッチを押す。
放送階・連動階の作動表示灯が点灯し、
発報放送が放送される。
放送階選択表示灯が点灯。

放送階選択

連動階

出火階

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)
「ただいま火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」



3 火災を確認する
●火災⇒火災放送スイッチを押す。
火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン
火事です/火事です/〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。
ビュービュービュー(第2シグナル音)

- 非常起動スイッチを押しても、火災放送されます。
- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して火災放送を止めることができます。

以下は自動的に移行します。

- 発信機起動(火災確認信号+階別信号)
- 非常電話作動(火災確認信号+階別信号)
- 感知器作動(階別信号)
- タイムアップ(2~5分)

●非火災⇒非火災放送スイッチを押す。
非火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

4 状況に応じて、
適宜マイクで放送する。
(マイク放送優先)
スイッチを押す

- 出火階と連動階にマイク放送が流れる。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となり、6の操作は不要です。
- 火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

7 非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。

押す

6 必要な階を選択し、再びマイクで放送する。

押す

押す

- 一斉放送の場合は、一斉放送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

5 放送復旧スイッチを押す。

押す

放送階選択指示灯が点滅。

非常放送を終了する場合は7へ。

非常放送のしかた(6)

■手動(火災)

(発報放送/火災放送切換スイッチが「火災放送」)

●手動起動には手動連動・個別手動の2種類があります。(出荷時は手動連動)
詳しくは工事説明書をご覧ください。

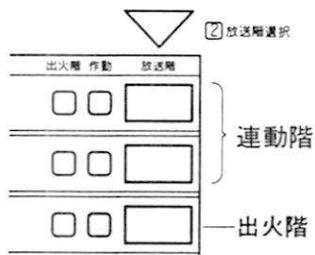


- 1** 非常起動スイッチを押す。
放送階選択指示灯が点滅。



- 2** 放送したい階の放送階選択スイッチを押す。

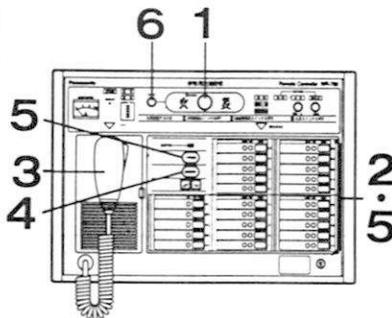
放送階・連動階の作動表示灯が点灯し、
火災放送が放送される。
放送階選択表示灯が点灯。



ピンポン ピンポン ピンポン
「火事です/火事です/火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー(第2シグナル音)

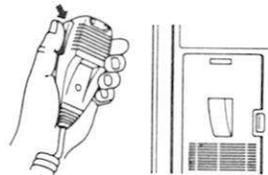
- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して火災放送をとめることができます。
- 非火災⇒非火災放送スイッチを押す。
非火災放送が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン(第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」



- 3** 状況に応じて、
適宜マイクで放送する。
(マイク放送優先)

スイッチを押す

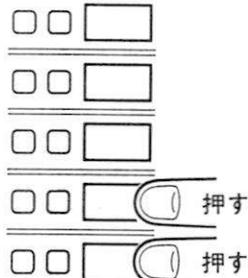


- 出火階と連動階にマイク放送が流れる。
- 連動一斉表示灯点灯時は、マイクは全館一斉放送となり、5の操作は不要です。
- 火災放送時マイクで放送した後、マイクスイッチを切ると第2シグナル音が鳴ります。

- 6** 非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。



- 5** 必要な階を選択し、再びマイクで放送する。



- 一斉放送の場合は、一斉放送スイッチを押す。
- 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、第2シグナル音が鳴ります。

- 4** 放送復旧スイッチを押す。



放送階選択指示灯が点滅。

非常放送を終了する場合は6へ。

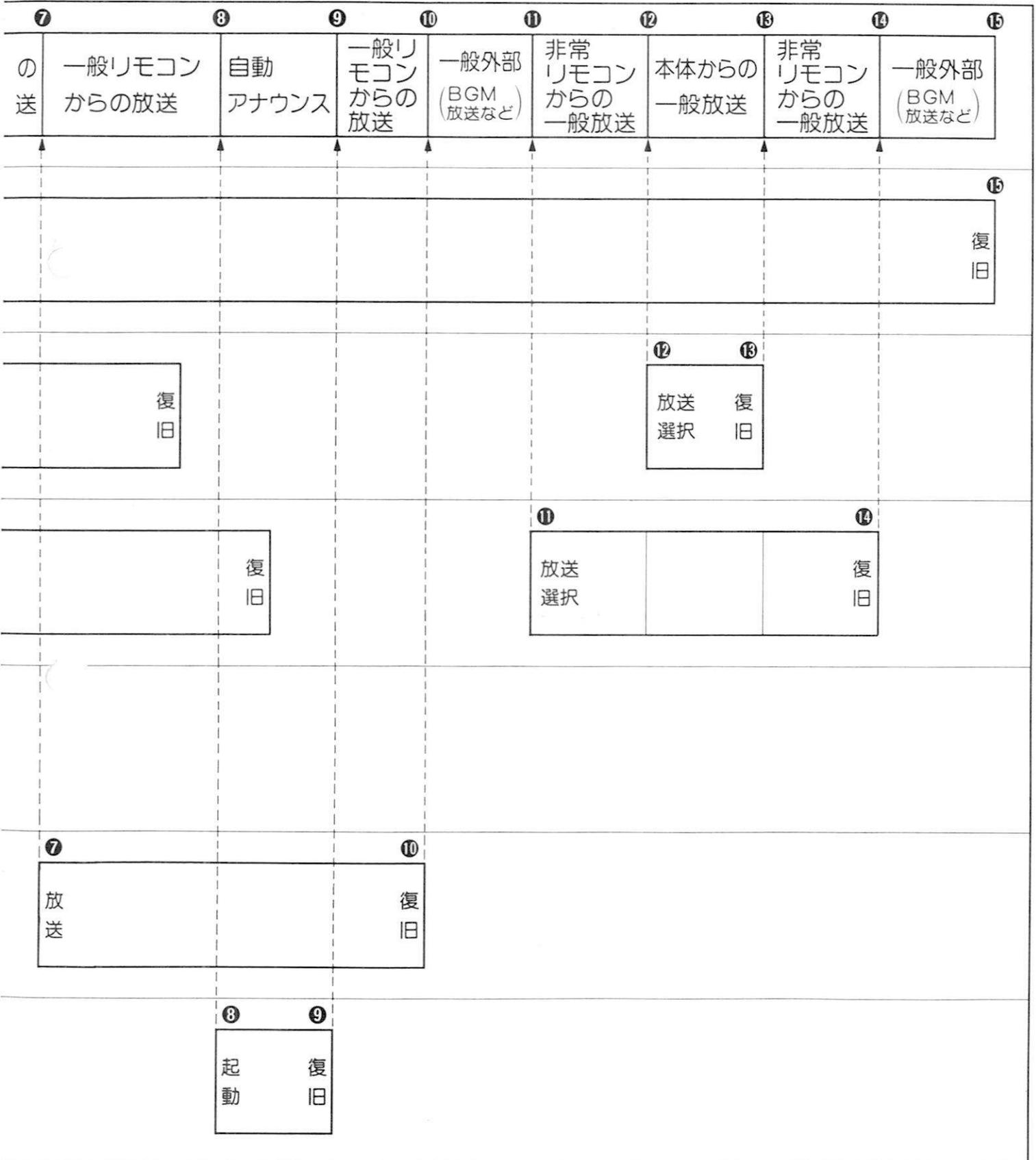
後押し優先方式について

- 本機は、後押し優先方式を採用しており、一般放送時には常に後から押したスイッチが優先します。
(非常放送時に後押し優先方式は働きません。)
- 例えば、一般外部放送中に、本体のマイク放送を始めると、スピーカからの放送は、マイク放送になります。また、本体のマイク放送が終了し、放送復旧スイッチを押すと一般外部放送が復旧されていないかぎり一般外部放送に戻ります。

[例] 下図は、本体および本体に接続される機器の放送開始や放送復旧の流れ図を示します。

スピーカの 放送内容 接続機種	①	②	③	④	⑤	⑥
	一般外部 (BGM放送など)	本体からの 一般放送	非常 リモコン からの 一般放送	チャ イム	非常リモコン からの一般放送	本体から 一般放
一般外部放送 (BGM放送など)	① 起 動					
本体からの 一般放送 (他の起動が復旧後は、 また本体放送になります)		② 放 送 選 択				⑥ 再 度 放 送 選 択
非常リモコン からの 一般放送			③ 放 送 選 択		⑤ 再 度 放 送 選 択	
チャイム放送				起 動	復 旧	
一般リモコン からの放送	※リモコンマイクの電源表示灯は、リモコンマイクが放送可能なとき(使用する機器が放送できる状態にあることの意味)のみ点灯します。					
アナウンス 放送						

※ □ の個所が、スピーカより放送されています。



日常点検

ご注意

万一の際、的確に機器が動作するよう日常点検をおこなってください。日常点検時に異常を発見したときは、ただちに販売店または、保守契約店にご連絡ください。修理、復旧を実費でおこないます。くわしくは、販売店にご相談ください。



■点検について

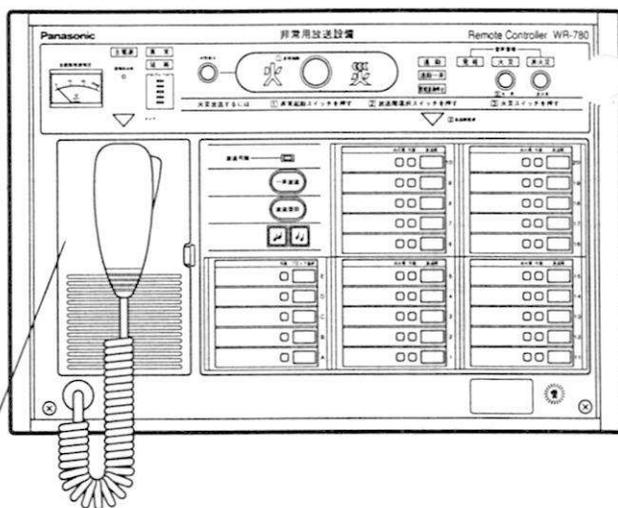
- 本機には、セルフチェック機能があり、コンピュータがリモコン回線、コンピュータ自身、スピーカー回線(短絡)、マイクを常時点検し、24時間おきに蓄電池の点検をおこないます。
- コンピュータが異常を発見したときは、操作パネル左上の異常表示灯、または短絡表示灯が点灯し警告音(ブザー：ピー)がなります。マイクドアを開け、どこの異常かを確認してから、販売店、保守契約店に連絡してください。
(異常が本体か、リモコンかは両方のマイクドアをあけて確認してください。)
- 警告音を止めるにはいずれかのスイッチを押してください。一時的に止めることができます。異常表示灯は赤く点灯したままです。

異常

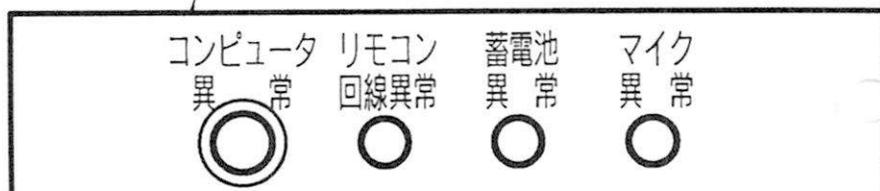
異常のあるときは、この表示灯が点灯します。

短絡

スピーカー回線が短絡すると、この表示灯が点灯します。



マイクドア内



コンピュータ回路に異常が生じると赤色に点灯し、ブザー音(ピー)が鳴り続きます。

リモコン回線に異常が生じると赤色に点灯し、ブザー音(ピー)が鳴り続きます。

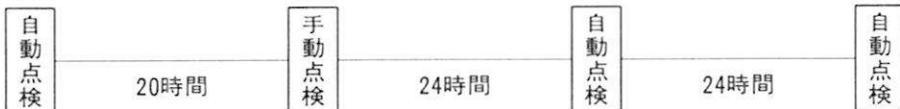
蓄電池に異常が生じると、赤色に点灯し、ブザー音(ピー)が約4秒おきに鳴ります。

マイクロホンに異常が生じると赤色に点灯し、ブザー音(ピー)が鳴り続きます。

■電源の点検

ご注意

- 本機には、セルフチェック機能があり、コンピュータが24時間おきに蓄電池の点検を自動的におこないますが、手動でも点検がおこなえます。
- 手動で点検をおこないますと、コンピュータは、それから24時間おきに自動的に点検をおこないます。



●自動点検

※コンピュータが24時間おきに点検をおこないます。

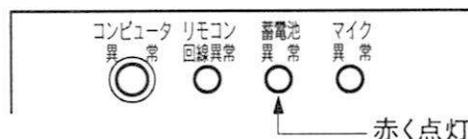
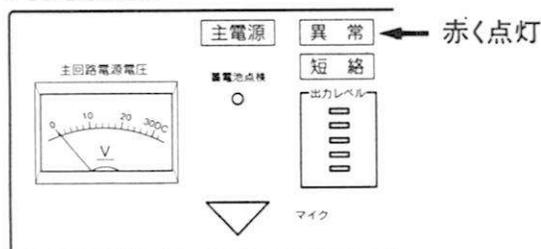
〔コンピュータが異常を発見したとき〕

- 「異常表示灯」と「蓄電池異常表示灯」が赤色に点灯し、4秒おきにブザー音(ピー)が鳴ります。

〔処置〕

- 操作パネルのいずれかのスイッチを押すとブザー音(ピー)が止まります。販売店または、保守契約店にご連絡ください。
- ブザー音(ピー)が止まっても異常表示灯は赤く点灯したままです。

Panasonic

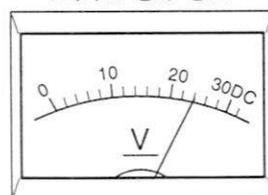


●点検のしかた

1. 非常電源電圧を確認してください。

蓄電池点検スイッチを押さない状態で、主回路電源電圧計の針が緑色(DC21~31V)の範囲内にあることを確認します。

主回路電源電圧



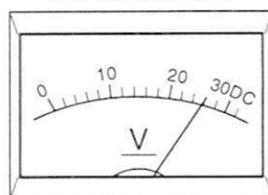
蓄電池点検



2. 蓄電池電圧を確認してください。

蓄電池点検スイッチを押して、主回路電源電圧計の針が緑色(DC21~31V)の範囲内にあることを確認します。

主回路電源電圧



蓄電池点検



押す

お願い

- 蓄電池点検スイッチは何度も続けて押さないでください。蓄電池の寿命が短くなる恐れがあります。

日常点検

●蓄電池の交換について

⚠注意

蓄電池の交換は、販売店か
保守契約店に依頼する



感電の原因となります。

- 蓄電池は非常放送されなくても、寿命があります。
- 点検の際容量不足があれば、全数新品と交換してください。
- 交換した蓄電池の取り扱いには注意してください。

※電力増幅ユニット及び蓄電池との組み合わせにより下記の通り構成されます。

ワット(W)数	非常用放送設備	電力増幅ユニット	ニカド蓄電池
60W	WK-770A	WU-P36A	NCB-165
120W	WK-770A,WK-775A,WK-780A	WU-P37A	NCB-350
240W	WK-770A,WK-775A,WK-780A	WU-P38A	NCB-600

⚠注意

- 蓄電池を交換する際は電力増幅ユニットのワット数に合わせて必ず上表のものを使用してください。これ以外の蓄電池を使用することは充電電流の違いなどから過充電など危険な状態になりますので絶対に使用しないでください。

出力	ニカド蓄電池
	品番
60 W	NCB-165
120 W	NCB-350
240 W	NCB-600

- 不要になったニッケル・カドミウム蓄電池は貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッケル・カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。



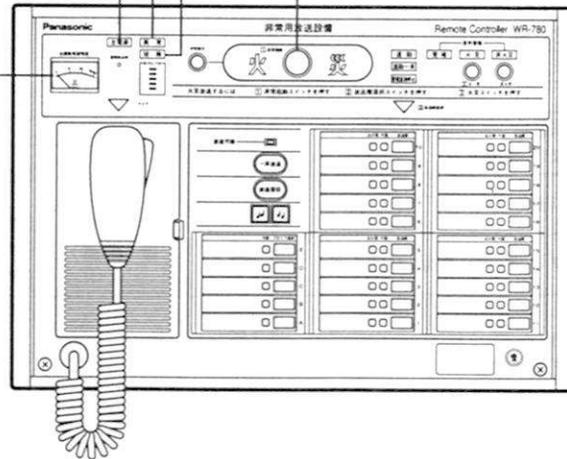
Ni-Cd

こんなときには

すぐに販売店または、保守契約店にご連絡ください。

短絡表示灯が点灯
異常表示灯が消灯
主電源表示灯が
消えている。

非常電源電圧または、
蓄電池電圧が主回路電
源電圧計の緑色の範囲
にないとき。



非常起動スイッチを押しても火災灯が暗い。

保守点検のお願い

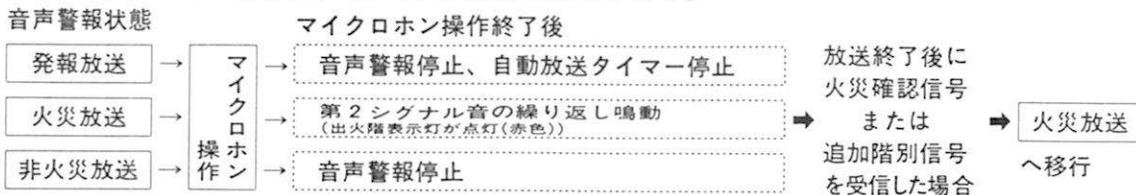
- 消防法により定期点検、消防署への報告および点検結果の維持台帳への記録が義務づけられています。
- 建物の規模、用途によっては消防設備士または、自治大臣が認めた有資格者が点検しなければなりません。
- 当社では非常用放送設備が正しく動作するために、締結をおすすめします。
- 保守契約をしていただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士」・「消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから保証期間内であっても定期点検業務については有償となります。



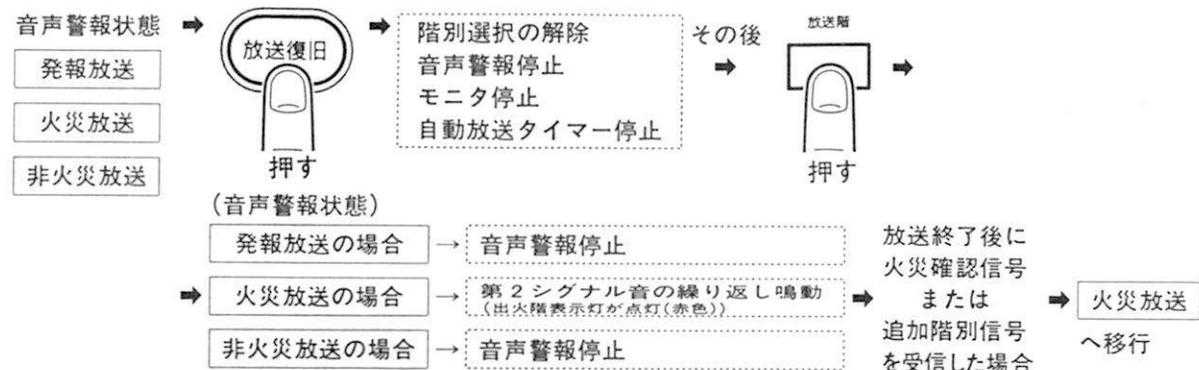
その他の動作

■非常マイクロホン操作について

非常マイクロホン操作は、音声警報状態に優先します。



■放送復旧スイッチ操作について



定格・付属品

■定格

電 源	DC+24V	主 回 路 電 源	非常電源電圧、蓄電池電圧 (プッシュノンロック切換式)
消 費 電 流	WR-770 220mA	WR-775 235mA	WR-780 250mA
周 波 数 特 性	100~10,000Hz±2dB		
ひ ず み 率	1%以下		
非常マイク入力	-58dB 600Ωに適合 不平衡 AVC付 (一般アナウンスと兼用)		
リモコン出力	-3.8dB 600Ω 平衡		
出力レベル計	5ポイント発光ダイオード表示		
モニタスピーカ	出力 0.3W 8Ω アッテネ付 (1, 2, 3) (ハウリング防止回路付)		
制 御 回 路	放送階選択 (WR-770): 10局+一斉 (WR-775): 15局+一斉 (WR-780): 20局+一斉 ブロック選択 5局		
寸 法	450(幅)×310(高さ)×60(奥行)mm		
質 量(重量)	[WR-770]: 約3.7kg [WR-775]: 約3.8kg [WR-780]: 約3.8kg		
仕 上 げ	パネル、側板、アルミカバー: マンセル7.9Y6.8/0.8 近似色 (AVアイボリー色)		

■付属品

マイクロホン(WU-Z22U)…………… |

保証とアフターサービス (よくお読みください)

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へお申し付けください。

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理相談窓口」へ！

■保証書(別添付)

必ず、お買い上げの販売店からお買い上げ日・販売店名などの記入をお確かめのうえ受け取り、よくお読みのあと、大切に保管してください。

保証期間：お買い上げ日から1年間

■修理を依頼される時

まず電源を切ってから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が出張修理させていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる商品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

お 買 い 上 げ 年 月 日	年	月	日	品 番	WR-770,775,780
販 売 店 名	電 話 ()				-

松下電器産業株式会社
松下通信工業株式会社 AVシステム事業部
〒224 横浜市都筑区佐江戸町600 ☎(045) 932-1231 (大代表)

N0294-3036

A8QA3243DN